

みたけ夢だより

3月号

横浜市立みたけ台小学校

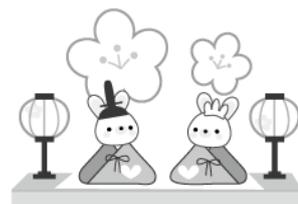
横浜市教育情報ネットワーク【Y・YNET】公開サイト <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mitakedai/>

一年を振り返って

校長 長尾 晴美

今年度もあと一ヶ月となりました。

先日夢教育応援団の「校内飾り担当」の方々が、ひな飾りを丁寧にホールに飾り付けてくださいました。このひな飾りは、昨年度の卒業生の保護者の方が、もしよかったらと寄贈してくださったものです。年に一度飾っていくことで、みた小の子どもたちの成長を見守り続けてもらえることになりました。



昔、学級を持っていたときに、「自分を見守ってくれているもの」の絵を一人一人かいて、クラスのみんなで語り合ったことがありました。いつも使っているまくらをかき子、飼っているペットをかき子、お日様の絵をかき子……。語り合ううちに、それらが、自分にとってかけがえのないものであったり、自分にエネルギーをくれるものであったりと、様々な意味をもっていることがわかり、教室中がなにか温かい雰囲気にも包まれたのを覚えています。

「見守る」という言葉には、積極的なイメージはないかもしれませんが、そこには確かにゆったりと温かく、信じて待つイメージがあります。見守りの中で温かく背中を押してもらえた子どもたちは、人との関わりの中で自信を持って前へ進むことができます。

この3月に、いよいよ6年生が卒業します。卒業文集の6年生の言葉は、宝石の粒のように光っていました。友達との絆、家族からの励まし、心に残る教師の言葉とともに、卒業を前にした今の自分の成長をしっかり見つめ、これから大事にしていきたいことが綴られていました。一人一人の輝きもちろんですが、6年生全員で力を合わせて創り上げた「ファイナルステージ」の発表は、成長の集大成でした。学年全員が心をつなぐことで大きくすてきなパワーが生まれていました。まさに平昌オリンピック、スピードスケートの女子団体で、個人記録では相手の方が上回っているオランダと決勝戦で対戦し、五輪新記録で金メダルに輝いたチームの力と同じに感じました。

この一年間で大きく成長した子どもたちを、いつも温かく見守ってくださりありがとうございました。卒業生には、これからも地域の中で見守っていただけますようよろしく願いいたします。